

(様式1)

自己評価表

愛媛県立大洲高等学校
学校番号(30)

教育方針	国家社会の有為な形成者としての資質を養うために知性を高め、心身ともに健康で豊かな人間性と創造力を備えた人間を育成する。 生徒の興味・関心・能力に応じた進路実現を目指し、社会の変化に主体的に対応し、社会貢献できる人材を育成する。	重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 常に向上心を持たせ、自ら学ぶ態度を育てる。 2 優しい心と誠実な人生観を持った生徒を育てる。 3 知性を磨き、心身ともに健康で社会貢献のできる生徒を育てる。 4 創意を生かし、国際感覚の豊かな生徒を育てる。 5 読書や芸術に親しませ、豊かな感性を培う。 6 地域とともに歩む、活力のある魅力を持った学校をつくる。
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
教育目標	適切な目標設定	本校の実情や生徒の実態に合った教育目標を設定するとともに、全教職員の共通理解を図る。	A	学校評価アンケートによると、全ての教職員が本校の実状や生徒の実態にあった目標設定がなされていると感じている。	本年度、スクールミッションとスクールポリシーを策定した。教職員の意見を基に、それらを踏まえた重点努力目標を策定する。
	積極的な目標の周知	ホームページやPTA総会などを通じて、生徒、保護者、地域に対して、教育目標の周知を図る。	B	学校評価アンケートによると、70%程度の保護者が学校運営方針の概要が十分伝わっていると感じており、昨年度より2.5%上昇した。	スクールミッションとスクールポリシーの周知を図り、広く保護者や地域の方々の意見を伺いながら見直す。
保護者、地域との連携	連携の深化	生徒の学校生活がさらに充実したものになるよう、保護者、地域との連携を深める。	B	規模縮小とはいえ、藤樹祭の仮装行列を大洲市内練り歩きで行うことができた。生徒の満足度も高く、地域からも好評であった。	藤樹祭の仮装行列、体育祭共に熱中症に気を付けながらできるだけ元の形に近づけていく。また、文化祭においてもPTAの協力を仰ぎ、バザーが実施できるようにする。
	積極的な情報提供	ホームページやPTA月報の内容を充実させるとともに、動画の配信を利用するなど、学校の情報を積極的に発信する。	B	ホームページの更新を全教員が行うようにした。また、各種行事、試合等の結果も随時アップして充実を図った。	学校行事での生徒の活躍の姿をより多く発信できるよう心掛ける。来年度も引き続きホームページの充実を図るとともに毎日更新を目指す。
学習指導	授業力の向上	各種研修等を通して、教科の専門的な知識・技量を高め合うとともに、ICT機器の活用について研究と実践を深め、各自の授業力を向上させる。	A	研修を通して知識・技量を高め、ICT機器を授業や課題の提出に活用することができた。	研修などを通じて、多くの教職員がICT機器の活用にかを入れ、授業の中での利用頻度が高まるように工夫する。
	授業の充実	内容の精選、工夫に務め、生徒が主体的・対話的で深い学びを実践できるように、生徒の理解度が高まる授業を実践する。	B	生徒の実態に応じた指導や、主体的・対話的で深い学びの実践ができていた。学校評価アンケートによると、80%程度の生徒が分かりやすい授業になるように努力している、教え方に工夫があると感じている。	学習格差が大きくなってきているので、定期考査結果などを通じて、生徒の実態を詳細に分析し、生徒の実態に応じた分かる授業につながる指導方法を研究する。
	生徒の皆勤率向上	1か年皆勤率各学年で70%以上、3か年皆勤率が50%以上を目指す。 1か年皆勤率(3か年皆勤率)の数値目標 A: 70%以上(50%以上) B: 69~65%(49~45%) C: 64~60%(44~40%) D: 59~55%(39~35%) E: 55%未満(35%未満)	D	3か年皆勤の生徒は57名であり、皆勤率は40%程度であった。欠席することへのハードルが下がり、安易に欠席する傾向が高まっているのではないかと感じている。さらに、特定の生徒の欠席が多く、学校不応状態や学習進度についていけないことなど理由も多様で、対応が困難になってきている。	生徒の実態に応じた分かる授業につながる指導方法を研究するなど、生徒が意欲的に授業や諸活動に取り組むことができる雰囲気づくりに努める。
	ホームルーム活動・総合的な探究の時間(良知)の充実	ホームルーム活動・総合的な探究の時間(良知)の内容を精選し、生徒が主体的・対話的で深い学びを実践できるよう、外部機関との連携を図るなど創意工夫する。	A	学校評価アンケートによると、80%以上の生徒が活発にクラス全体でホームルーム活動に取り組んでいると感じている。また、良知においても、外部機関に対するインタビューなど、地域との連携を図ることができた。	探究活動を通じて、地域と未来の自分との関わりを意識させるとともに、地域のリーダーとしての資質・能力を養う。

進路指導	進路指導の充実	生徒、保護者に適切に情報を発信するとともに、保護者との連携を図る。	B	進路情報誌や奨学金に関する資料など、積極的に生徒を通じて保護者へ配布した。	今後も適切な時期に保護者が必要とする進路情報を提供できるよう努める。また、ホームページなどを通じて積極的に進路情報の提供を行う。
		就職・進学共に合格率100%を目指す。 A：100% B：99～95% C：94～90% D：89～85%未満 E：85%未満	B	合格率は99%であった。特に総合型選抜、学校推薦型選抜の合格率は54.9%（昨年度は40.4%）と昨年を大きく上回る結果であった。	進学においては、来年度以降も総合型、学校推薦型選抜入試での受験が増えると思われる。学年団のみならず、教職員全員でサポートしていく体制を更に強化する。
		国公立大学合格者60名以上を目指す。 A：60名以上 B：59～55名 C：54～45名 D：44～40名 E：39名以下 難関国立大学合格者数5名以上を目指す。 A：5名以上 B：4名 C：3名 D：2名 E：1～0名 就職内定率100%を目指す。 A：100% B：99～95% C：94～90% D：89～85% E：85%未満	A E A	推薦入試での合格者が増加した。一般入試も含めて3月9日現在で、国公立大学は60名が合格している。ただ、難関大学での合格者は1名であった。 また、民間企業の就職内定率は100%であった。公務員試験の受験者は、不合格となる生徒もあり、試験対策が不十分であった。	来年度も推薦入試での合格者を増やせるよう、生徒の適性を見極めつつ、きめ細やかなサポート体制を強化していく。また、発展講座や難関大を志望する生徒を対象にした講義を行うなど、上位層の意識高揚につなげる。 民間企業については、引き続き就職内定率100%を目指す。公務員試験受験者に対しては、模擬試験などを積極的に活用する。
		家庭学習時間は1・2年生は3時間以上、3年生は4時間以上を目標に、計画的に学習に取り組ませる。 1・2年生（3年生）の数値目標 A：3時間以上（4時間以上） B：2.9～2.5時間（3.9～3.5時間） C：2.4～2.0時間（3.4～3.0時間） D：1.9～1.5時間（2.9～2.5時間） E：1.5時間未満（2.5時間未満）	B	11月に実施した学習時間調査によると、1年生が201分、2年生が152分、3年生が183分であった。1年生は昨年度に比べて大幅に増加、2年生は微増、3年生は減少している。	教科の実情に応じた課題の提示など、日常の学習への取組を習慣化させ、家庭学習時間の確保に努めさせる。また、規則正しい生活及び3点固定を確立させることによって、安定した学習時間を確保させる。平日にできなかったことを休日に補うというスタイルを身に付けさせる。
生徒指導	生徒指導の充実	教職員の共通理解を図り、連携して指導にあたり、特別指導件数0を目指す。 A：0件 B：1件 C：2件 D：3件 E：4件以上	D	担任、学年主任、関係各課が連携し生徒指導を行ったが、問題行動が3件（5名）発生し、特別指導を行った。ただし、指導後の経過は良好である。	スマートフォン（SNS）に関するトラブルを防止するため、非行防止教室やホームルーム活動での啓発活動をさらに充実させる。また、人権・同和教育課と連携し、いじめの防止、早期発見に努める。
	規範意識の向上	基本的な生活習慣の確立を図り、特に、礼儀、授業態度、清掃、身だしなみ、情報モラルについて指導にあたる。	B	気持ちのよい挨拶ができる生徒が多い。身だしなみも生徒会が違反がなくなるよう呼びかけ、生徒の自主性が出てきた。	生徒の主体性を伸長させると同時に、生徒が自主的に規範意識を向上させることができるよう教職員がサポートする。
	交通安全指導の充実	安全意識の高揚に努め、交通事故0を目指す。自転車通学生のヘルメット着用率100%を目指す。 A：100% B：99～98% C：97～96% D：95～94% E：94%未満	C	自転車通学生のヘルメット未着用での指導は0件であったが、自転車乗車中の車との接触事故が3件発生した。	交通委員会の活動や交通講話を充実させるとともに、ヘルメット着用の意義と交通ルールを遵守することの大切さを繰り返し指導する。
教育相談	教育相談の充実	ホームルーム担任、学年主任、養護教諭、スクールカウンセラーなどによる校内体制を充実させるとともに、保護者や外部の関係機関と連携し、学校不適応傾向生徒の早期発見・早期対応に努める。	B	ホームルーム担任を中心に、学年主任、養護教諭、スクールカウンセラーなどの校内関係者及び保護者や外部関係機関と連携・協力して対応した。学校評価アンケートによると、74%の生徒が心身の悩みを聞き適切なアドバイスが行われていると感じており、昨年度よりも5%上昇している。	不登校傾向の生徒が増えつつある。校内関係者及び外部関係機関との更なる連携を図り、学校不適応状態にある生徒の早期発見及び早期対応に努める。
	特別支援教育の充実	特別支援教育コーディネーターを中心に、保護者や関係機関との相談・連絡・連携の強化を図り、チームで対応する組織作りと実践を行う。	B	特別な支援が必要な生徒について、校内関係者及び保護者や外部関係機関と情報を共有し、連携・協力して対応した。また、校内研修により、特別な支援が必要な生徒についての理解を深めた。	特別な支援を必要とする生徒について、校内関係者で情報共有を図り、保護者及び外部関係機関と連携しながら、個々の生徒に対するより適切な支援に努める。また、校内研修により、特別支援教育についての教職員の理解と対応力の向上を図る。

特別活動	部活動の充実	いじめ、体罰等を根絶する。休養日を設定し、安全かつ健全な活動を推進する。 全運動部の県総体出場を目指す。 部活動加入率95%を目指す。 A：95%以上 B：94～93% C：92～91% D：90% E：90%未満	A	「大洲高校における部活動に係る活動方針」に基づき、部活動の充実を図ることができた。全運動部の県総体出場が実現、179名の生徒が出場した。部活動加入率は97.4%（5月1日現在）であった。	日々の部活動において、適切な休養日を設定し、安全かつ健全な活動に取り組む。顧問は生徒の自主性を大切にしながらも、可能な限り生徒に寄り添い指導・監督する。
	学校行事の充実	生徒、教職員が協力して取り組み、活力ある学校行事にする。地域を元氣付ける藤樹祭にする。	A	新型コロナウイルス感染症予防に最大限配慮した上で、規模を縮小し制限がありながらも学校行事を行うことができた。学校評価アンケートによると、生徒、保護者共に90%程度が楽しく充実したものと感じている。	生徒が生き生きと活動できる環境を整えるとともに、保護者や地域の方々にも楽しんでいただける配慮した学校行事になるよう、教職員がサポートする。
安全教育	防災、安全意識の向上	防災、安全意識の向上を図る。 緊急時の対応及び避難方法を全員に周知徹底する。	A	原子力防災訓練やシェイクアウトえひめなど、年3回の防災避難訓練を実施することができた。90%以上の生徒が緊急時における対応について理解している。	学校を取り巻く実情に応じて危機管理マニュアルを改訂するとともに、実際の災害を想定し、抜き打ちの防災訓練を継続して実施する。
	安全点検の徹底	毎月の安全点検を行い、修理・修繕等事故防止のための安全管理を徹底する。	B	毎月の安全点検を行い、安全な教育環境の整備に努めた。	毎月の安全点検の事後措置を徹底する。
健康管理	健康教育の充実	生徒の健康状態を把握し、事後措置を迅速に行う。 新型コロナウイルス感染症対策について啓発活動を行い、生徒自身の健康に関する自己管理能力の向上を図る。	A	保健調査や健康診断によって生徒の健康状態を把握し、受診等が必要な生徒については、個別指導によって事後措置を徹底することができた。毎月の保健だよりや生徒保健委員会活動、必要に応じての情報発信等を通して、新型コロナウイルス感染症対策についての啓発活動を行い、意識の向上を図った。	個別の保健指導を丁寧に行い、健康診断の結果に基づく事後措置を迅速に完了させる。生徒保健委員会活動をより充実させ、健康教育の啓発に努める。引き続き、新型コロナウイルス感染症対策について啓発活動を行い、生徒自身の健康に関する自己管理能力の向上を図る。
図書・研修	朝読書の充実	学校全体で朝読書に取り組み、充実した高校生活を築き、基礎学力を育てる一助とする。	B	全校で取り組む姿勢が見られた。	図書委員長が定期的に積極的な取組を呼びかけるなど、更に全校的な取組を促す。
	図書館利用の活性化	図書館に蔵書されている本の情報を積極的に発信する。学年、ホームルーム、教科と連携を図りながら、図書館の利用を促進し、年間貸出冊数一人当たり5冊以上を目指す。 A：5冊以上 B：4.9～4.0冊 C：3.9～3.0冊 D：2.9～2.0冊 E：2.0冊未満	E	貸出冊数は1.8冊で目標を達成できなかった。教科やホームルーム、総合的な探究の時間では工夫した図書館利用が見られた。	図書館の蔵書の整理や、新着図書などの情報の積極的な発信により、図書館の利用を促進する。
	校内研修の充実	相互授業参観や校内研究授業等を充実させ、授業力の向上を図る。	B	相互授業参観及び校内研究授業を適切に行った。	教職員全員が年に一度は授業参観を行うとともに、相互研究に努め授業力の向上を図る。
	自己研修の充実	校外研修の情報を的確に伝え、積極的な参加を促し、授業力の向上を図る。	B	昨年度より校外研修への積極的な参加が見られた。学校評価アンケートによると、90%以上の教職員が校外研修等に関する情報が知らされ、参加できる体制ができていると感じている。	更なる校外研修への積極的な参加を促し、得た情報を校内研修として還元してもらい、学校全体の活動の充実につなげる。
	積極的な授業公開	P T A総会、ホームページ等で周知し、参観者の増加を図る。	B	事前にプリントやホームページでの周知をした上で、公開授業をすることができた。	来年度も事前にプリントやホームページなどで周知を広く行い、参加者の増加を図る。

人権・ 同和 教育	いじめ対策の充実	いじめの防止・いじめの早期発見を心掛け、いじめや差別のない明るい学校づくりを目指す。 「学校生活アンケート」の結果を学年団で共有し、面談に生かすなど、実態の把握といじめの防止に努める。	B	学校生活に関するアンケートの結果を学年団で共有し、タイミング良く生徒と担任の面談を行うことによって、いじめの防止につなげることができた。	学校生活に関するアンケートを記名式にするか無記名式にするかはそれぞれメリットデメリットがあり、議論の分かれるところである。学年主任、担任と連携しながら生徒の悩みや意見を出しやすくするための方法を模索しながらよりよい調査方法を探っていく。
	人権・同和教育の充実	人権問題を自分のこととして捉え、差別をなくす行動につながる学習内容を充実させる。 人権だよりの作成や公開授業・人権集会等への案内、学校ホームページの活用を通して、保護者・地域との連携を強化する。	B	たくさんの保護者や関係機関の方々が人権・同和教育ホームルーム活動や人権・同和教育講演会に参加し、地域全体の啓発につなげることができた。	人権・同和教育ホームルーム活動や人権集会を参観した保護者や関係機関の方々の意見の人権だよりに反映するなど、地域全体の人権・同和教育を充実させる。
教育 環境	教育環境の充実	美化委員会を中心に家庭クラブ等と連携し、清掃活動を充実させて、校内の美化に努める。	B	毎日の清掃活動や美化委員会による美化活動を通じて、快適な環境整備ができた。	美化委員会を中心に清掃活動を充実させ、環境整備を進める。
組 織 運 営	校内組織の充実	教職員間の意思疎通を深め、連携・協力体制を確立する。	B	学校評価アンケートによると、90%程度の教職員が共通理解の下、全員で生徒指導に当たっていると感じているなど、連携・協力体制ができています。	何気ない会話の推奨など、日頃のコミュニケーションの活性化を図り、風通しの良い雰囲気づくりに努め、教職員間の連携・協力体制を更に高める。
業 務 改 善	業務時間の適正化	各種会議において、効率的な計画を立て、議題の精選に努め、時間短縮を図る。 教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。校務支援システムの活用を推進し、業務の効率化と時間の有効活用を図る。	C	メッセージ機能を活用した連絡体制、アンケート機能を活用した意見交換など、業務の効率化と時間の有効活用が実現できた。休憩時間の確保、勤務時間の削減という点では課題が残った。	会議の精選を図るとともに、会議資料を事前に配布し、確認を求めるなど、時間の有効活用に努める。また、会議、研修会の実施時期を工夫し、休暇を取得しやすい環境づくりに努める。
	職場環境の整備	「健康と職場環境に関するアンケート」を実施し、健康、衛生、安全面での課題について実態を把握し、改善が必要な場合は速やかに対応する。	A	衛生委員会において、職場環境改善についての月例アンケート、健康と職場環境に関するアンケートを実施して現状を把握し、改善に努めた。健康相談室だよりの配布などを通して、職員の健康に関する意識の向上を図った。	衛生委員会などを活用し、教職員の意見を吸い上げ、職員室、休憩室などの施設・設備の点検、整備に努める。

(A : 十分な成果があった B : かなりの成果があった C : 一応の成果があった D : あまり成果がなかった E : 成果がなかった)